

# マスクミから見た感染症危機

2024/01/12

内閣感染症危機管理統括庁

「新たな感染症危機にいかに対応するか」

産経新聞社 佐藤好美

# コロナ禍の混乱

—認識を合わせてその先へ

## ①患者の現実と医療の理屈

患者) 発熱→受診→検査→投薬→安静、が日頃  
医療職) 特化した治療がないときの検査、外来、訪問

## ②科学リテラシーの不足—根拠の明らかなでない薬の承認騒動

「三た論法」からの脱却を  
薬を使っ<sup>た</sup>→病気が治っ<sup>た</sup>→薬が効い<sup>た</sup>  
雨ごいの太鼓をたたい<sup>た</sup>→雨が降っ<sup>た</sup>→雨ごいが効い<sup>た</sup>  
(佐久間昭「くすりに強くなる本」1971)

因果関係を証明しません

### ③不安にどう対処するかーフェイクニュース騒動

正しい情報を早く、多く、普通の言葉で  
働きかけの相手を多様に(SNS、NPO法人、患者団体)

分かっていること、まだ分からないことを分ける  
トレードオフを明らかにする  
不都合な情報をどう伝えるか  
エビデンスの十分でない決定をどう伝えるか

平時に求められるのは

- 日頃にそぐう地域医療とリソースの準備
- 多様なステークホルダーとの関係づくり
- 科学、メディア、データリテラシー向上
- エビデンスを得るためのデータ整備を確実に